

はじめに

情報学群長 海老原義彦

2007年に筑波大学の学群改組が行われ、情報科学類、情報メディア創成学類と知識情報・図書館学類から構成される情報学群が誕生しました。各学類がカリキュラムを新たに編成し、または改善・工夫している時期に、タイミング良く、情報学群から応募申請しました「異分野学生の協働によるコンテンツ開発演習」が文科省現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択されました。このプログラムは現代GP（Good Practice）プログラムとも呼ばれ、期間は3年間（2007年度－2009年度）で、今年度は2年目に入りました。

教育宣言として広く社会に公表している「筑波スタンダード」にも謳っているように情報学群・学類では演習・実習科目の重要性を認識しておりました。現在、本プログラムは現代GP運営委員会の基に9つ演習トラックが編成され、実施されております。その運営に当たり、杉本重雄先生はじめ多くの関係される先生方にご尽力をいただいております。さらに、啓発セミナー等を通して、学内外の本プログラムの成果を積極的に発信しております。

本プログラムのアイディアは、「三人寄らば、文殊の知恵」とか、古くは、中国春秋時代の淮南子の「一生二、二生三、三生万物」などのことわざや故事に広義の意味で相通ずるところがあります。アジアばかりではなく、欧米にも同じような主旨のことわざがあります。本プログラムの題名で、特に「異なる分野の学生による協働」が強調されておりますが、異なる学問分野を背景にもつ学生同士が集まり、多様な見解が加われば、より一層素晴らしい考えや知恵が浮かび、質の高い演習が期待できるのではないかと考えております。たとえば、美意識や感性のある芸術系の学生とイラストレータなどの画像処理に長けた理工学系の学生が一緒になり、独創的作品を作ることができるものと大いに期待しております。従来とは異なる一つの新たなブレークスルーする教育方法が試されているのではないかと私なりに考えております。さらに、異なる見解や考え方をまとめ合うには、学生同士のコミュニケーション能力も問われます。当然、初頭の目的を達成するには、異なる専門分野をもつ教員のご協力や学生の参加を得なければなりません。このような構成は限られた環境や資源の中では困難を極めました。幸いにも、情報学群ばかりではなく、芸術専門学群、生命環境学群等の他の学群の教員の多大なご支援をいただきました。また、他の学群の学生も積極的に参加していただきました。ここに、他大学の教員の方々を含めた関係者の皆様に改めて深く感謝いたします。また、私事で恐縮しますが、時々、演習の現場を授業参観させていただき、学生たちが生き生きとして楽しそうに演習を進めている姿を拝見するのを、いつも楽しみにしております。

この場をお借りして、本プログラムの取組に当って、筑波大学、図書館情報メディア研究科や情報学群等から予算的支援をいただきましたことをご報告すると共に、心より感謝申し上げます。

最後に、図書館情報支援室の関係職員の方々には、いろいろとご協力をいただき、ありがとうございました。